

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B1)

(11) 特許番号

特許第6242530号
(P6242530)

(45) 発行日 平成29年12月6日 (2017. 12. 6)

(24) 登録日 平成29年11月17日 (2017. 11. 17)

(51) Int. Cl.

F 1

B 2 6 D 3/24 (2006. 01)

B 2 6 D 3/24 K

A 4 7 J 43/20 (2006. 01)

B 2 6 D 3/24 N

A 4 7 J 43/20

請求項の数 4 (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2017-113134 (P2017-113134)

(22) 出願日 平成29年6月8日 (2017. 6. 8)

審査請求日 平成29年7月4日 (2017. 7. 4)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 517202180

Koshino Recipe株式会社
愛媛県西条市三津屋南11-57 スター
ションハイツ602

(74) 代理人 100142217

弁理士 小笠原 宜紀

(74) 代理人 100119367

弁理士 松島 理

(72) 発明者 越野 俊二

愛媛県西条市三津屋南11-57 スター
ションハイツ602 Koshino R
e c i p e 株式会社内

審査官 豊島 唯

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ゆで卵カッター

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゆで卵を切断する系状部材と、

少なくとも2つ以上のセグメントからなり、前記ゆで卵を包み込むように保持するゆで卵保持部と、

前記系状部材が取り付けられ、前記取り付けられた系状部材とともに、前記ゆで卵保持部に覆われたゆで卵に一端が挿入される固定棒と、

前記系状部材が貫通するよう、隣り合う前記セグメントを離間させてなる溝と、

前記ゆで卵保持部に前記ゆで卵を挿脱させるよう、前記複数のセグメントを開閉自在に連結させる連結部と、

を備え、

前記連結部は、複数の連結部材からなり、

前記連結部材は、ユーザが少なくとも2つの連結部材を片手で握ることができるよう、互いに回動可能に結合されることを特徴とするゆで卵カッター。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のゆで卵カッターであって、さらに、

前記固定棒がゆで卵保持部に挿入される長さを調整する調整部を備えるゆで卵カッター

。

【請求項 3】

請求項 1 又は請求項 2 に記載のゆで卵カッターであって、さらに、

前記固定棒がゆで卵に挿入された際に、前記系状部材が前記溝を貫通するよう取り付けられ、前記系状部材が前記溝に沿って移動するよう前記系状部材を誘導する誘導部を備えるゆで卵カッター。

【請求項 4】

ゆで卵を切断する系状部材と、

少なくとも 2 つ以上のセグメントからなり、前記ゆで卵を包み込むように保持するゆで卵保持部と、

前記系状部材が取り付けられ、前記取り付けられた系状部材とともに、前記ゆで卵保持部に覆われたゆで卵に一端が挿入される固定棒と、

前記系状部材が貫通するよう、隣り合う前記セグメントを離間させてなる溝と、

前記ゆで卵保持部に前記ゆで卵を挿脱させるよう、前記複数のセグメントを開閉自在に連結させる連結部と、

前記固定棒がゆで卵保持部に挿入される長さを調整する調整部と、
を備え、

前記調整部は、前記固定棒に設けられた目盛であることを特徴とするゆで卵カッター。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ゆで卵の切り口を美しく切断するゆで卵カッターに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、ゆで卵を切る道具として、ゆで卵を輪切りにスライスするゆで卵カッターがよく知られている。しかしながら、このようなゆで卵カッターは、飾り切りのような装飾的な切断はできなかった。

【0003】

このような問題を解決すべく、例えば特許文献 1 に示すような卵の飾り切り器が知られている。この卵の飾り切り器は、各断面が V 字又は W 字の三角形の花形切り刃と、卵を立てて保持し、前記花形切り刃を当てて差し込む案内部を有する卵保持器からなり、ユーザは、花形切り刃を、案内部に当て、卵保持器に立てた卵に順に差し込むことで、ゆで卵を花形切りにできる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2006 - 102931 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、刃の差し込み角度により、切り込みの入りが変わるため、綺麗な飾り切りができるようになるには慣れが必要で、加えて、刃物を使用するため、安全性の面から、小さな子供には適さなかった。

【0006】

本発明は、従来のこのような問題点に鑑みてなされたものである。本発明の目的の一は、安全で、誰にでも美しい飾り切りが容易にできるゆで卵カッターを提供することにある。

【課題を解決するための手段及び発明の効果】

【0007】

本発明の第 1 の側面に係るゆで卵カッターによれば、ゆで卵を切断する系状部材と、少なくとも 2 つ以上のセグメントからなり、前記ゆで卵を包み込むように保持するゆで卵保持部と、前記系状部材が取り付けられ、前記取り付けられた系状部材とともに、前記ゆで卵保持部に覆われたゆで卵に前記一端が挿入される固定棒と、前記系状部材が貫通するよ

10

20

30

40

50

う、隣り合う前記セグメントを離間させてなる溝と、前記ゆで卵保持部に前記ゆで卵を挿脱可能に前記複数のセグメントを開閉自在に連結させる連結部と、を備えることができる。前記構成により、溝に沿って糸状部材を動かすだけで、誰でも美しい飾り切りが容易にできる。また、刃物を使用しないので、安全性が高く、小さな子供でも扱うことができる。

【0008】

また、本発明の第2の側面に係るゆで卵カッターによれば、さらに、前記固定棒がゆで卵保持部に挿入される長さを調整する調整部を備えることができる。前記構成により、固定棒を差し込む長さを変えることで様々なバリエーションの飾り切りができる。また、差し込む長さは、容易に調整できるので、ユーザの思いどおりの形状にゆで卵を切断することが

10

【0009】

また、本発明の第3の側面に係るゆで卵カッターによれば、さらに、前記固定棒がゆで卵に挿入された際に、前記糸状部材が前記溝を貫通するよう取り付けられ、前記糸状部材が前記溝に沿って移動するよう前記糸状部材を誘導する誘導部を備えることができる。前記構成により、糸状部材の端が分かりやすく、指に痛みを感じさせず、容易に把持することが

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの外形図である。

20

【図2】本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの構成図である。

【図3】本発明の第二実施例に係るゆで卵カッターの外形図であって、図3Aは正面図、図3Bは右側面図である。

【図4】本発明の第三実施例に係るゆで卵カッターの外形図であって、図4Aは正面図、図4Bは右側面図である。

【図5】本発明の第四実施例に係るゆで卵カッターの外形図であって、図5Aは正面図、図5Bは右側面図である。

【図6】本発明の第五実施例に係るゆで卵カッターの外形図であって、図6Aは正面図、図6Bは右側面図である。

【図7】本発明の第六実施例に係るゆで卵カッターの外形図である。

30

【図8】本発明の第六実施例に係るゆで卵カッターの内部構造図である。

【図9】本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの調整部の説明図であって、図9A～図9Dは、目盛の位置についての説明図であり、図9E～図9Hは、図9A～図9Dに対応する目盛の位置に調整した際にできるゆで卵の切り口についての説明図である。

【図10】本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの使用方法についての説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。ただし、以下に示す実施の形態は、本発明の技術思想を具体化するためのゆで卵カッターを例示するものであって、本発明はそれらを以下のものに特定しない。また、本明細書は特許請求の範囲に示される部材を、実施の形態の部材に特定するものでは決してない。特に実施の形態に記載されている構成部品の寸法、材質、形状、その相対的配置等は特に特定の記載がない限りは、本発明の範囲をそのみに限定する趣旨ではなく、単なる説明例にすぎない。なお、各図面が示す部材の大きさや位置関係等は、説明を明確にするため誇張していることがある。さらに以下の説明において、同一の名称、符号については同一もしくは同質の部材を示しており、詳細説明を適宜省略する。さらに、本発明を構成する各要素は、複数の要素を同一の部材で構成して一の部材で複数の要素を兼用する態様としてもよいし、逆に一の部材の機能を複数の部材で分担して実現することもできる。

40

(ゆで卵カッター1～6)

50

【 0 0 1 2 】

本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの外形図を図 1 に、発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの構成図を図 2 に、本発明の第二実施例～第五実施例に係るゆで卵カッターの外形図であって正面図を図 3 A～図 6 A に、右側面図を図 3 B～図 6 B に、本発明の第六実施例に係るゆで卵カッターの外形図を図 7 に、本発明の第六実施例に係るゆで卵カッターの内部構造図を図 8 に示す。

【 0 0 1 3 】

図 1～図 2 に示すように、本発明の第一実施例に係るゆで卵カッター 1 は、ゆで卵 B E を切断する糸状部材 1 2 と、複数のセグメント 1 3 1、1 3 2 からなり、ゆで卵 B E を包み込むように保持するゆで卵保持部 1 3 と、糸状部材の一端 1 2 1 が取り付けられ、取り付けられた糸状部材 1 2 とともに、ゆで卵保持部 1 3 に覆われたゆで卵 B E に一端 1 6 1 が挿入される固定棒 1 6 と、糸状部材 1 2 が貫通するよう、隣り合うセグメント 1 3 1、1 3 2 を離間させてなる溝 1 4 と、ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を挿脱させるよう、複数のセグメント 1 3 1、1 3 2 を開閉自在に連結させる連結部 1 5 と、糸状部材の他端 1 2 2 に取り付けられた誘導部 1 8 とを備えている。

【 0 0 1 4 】

また、本発明の第二実施例～第五実施例に係るゆで卵カッター 2～5 は、図 3～図 6 に示すように、第一実施例と略同様の構成であって、セグメントの形状、及び、数を変更した場合の実施例である。以下、図 1～2 を参照しながら、本発明の第一実施例について、詳細に説明するが、第二実施例～第五実施例についても略同様の構成であり、相異点については、適宜説明する。

(糸状部材 1 2)

【 0 0 1 5 】

糸状部材は、ゆで卵を切断するための部材である。糸状部材 1 2 は、図 1～2 に示すように、一端 1 2 1 が、固定棒 1 6 1 に結び付けられ、他端 1 2 2 が、誘導部 1 8 に結び付けられた例えばピアノ線である。ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を保持した状態で、誘導部 1 8 を引っ張りながら、溝 1 4 に沿って動かすことにより、固定棒 1 6 と誘導部 1 8 によって張られたピアノ線は、ゆで卵 B E を切断する。本実施例において、糸状部材 1 2 は、ピアノ線を使用しているが、ゆで卵 B E が切断できる程度の強度があればよく、釣り糸や、風糸などでもよい。また、糸状部材 1 2 は、図 4、図 7～8 に示すように、複数個備えてもよい。

(ゆで卵保持部 1 3)

【 0 0 1 6 】

ゆで卵保持部は、ゆで卵を保持するための部材である。

【 0 0 1 7 】

ゆで卵保持部 1 3 は、例えば、プラスチックを成形してなる容器で、図 1～2 に示すように、端部が波形に成形された半卵形の第一セグメント 1 3 1 と、第一セグメント 1 3 1 の端部の波形に対向するよう端部が波形に成形され、第一セグメント 1 3 1 と一体となって、ゆで卵 B E を包み込むように保持する第二セグメント 1 3 2 からなる。波型は、図 1 に示すような三角波形状であってもよいし、図 3 に示すようなω形状でもよいし、図 5 に示すような正弦曲線形状でもよい。また、ゆで卵保持部 3 3、4 3、5 3、6 3 を構成するセグメントの数は、例えば、図 4 に示すように、3 つでもよいし、図 5～6 に示すように、4 つでもよいし、図 7 に示すように、10 個でもよく、数は限定されない。

(溝 1 4)

【 0 0 1 8 】

溝は、糸状部材の移動範囲を制限することでガイドとして働き、ゆで卵の切断を容易にするための部材である。

【 0 0 1 9 】

溝 1 4 は、例えば、図 2 に示すように、糸状部材 1 2 が貫通できる程度に隣り合うセグメント 1 3 1、1 3 2 を離間させて配置することにより形成される。形状については、例

えば、図１～２、図４、図６～７に示すような三角波形状の溝１４、３４、５４、６４でもよいし、図３に示すようなω形状の溝２４でもよいし、図５に示すような正弦曲線形状の溝４４でもよい。溝の形状は、上述の形状に限定されず、適宜設計することができる。

(連結部１５、３５、６５)

【００２０】

連結部は、セグメント同士をつなぎ、ゆで卵保持部にゆで卵を挿脱可能に開閉させるための部材である。なお、連結部２５、４５、５５は、連結部１５と同様の構成とすることができる。

(連結部１５)

【００２１】

10

連結部１５は、例えば、図１～２に示すように、第一連結部材１５１と、第二連結部材１５２とからなり、第一連結部材１５１は、第一セグメント１３１に溶着される第一セグメント側端部１５１１と、ユーザに把持される第一把持部１５１３と、第一セグメント側端部１５１１と第一把持部１５１３の間に位置し、第二連結部材１５２と回動可能に結合される第一結合部１５１２とを備えている。また、第二連結部材１５２は、第一連結部材１５１と同様の構成で、第二セグメント１３２に溶着され、第二セグメント側端部１５２１と第二把持部１５２３の間に位置する第二結合部１５２２によって、第一連結部材１５１と回動可能に結合されている。

【００２２】

第一連結部材１５１と第二連結部材１５２とは、バネ１７によって、第一セグメント側端部１５１１と第二セグメント側端部１５２１とが近づけられる方向に常時押圧されている。

20

【００２３】

連結部１５は、洗濯ばさみのように、ユーザが第一把持部１５１３と第二把持部１５２３を強く握ることによって、第一把持部１５１３と第二把持部１５２３とが近づく方向に動かされると、第一セグメント側端部１５１１に溶着されたセグメント１３１と第二セグメント側端部１５２１に溶着されたセグメント１３２とが離れる方向に動くことにより、ゆで卵保持部１３が開き、ゆで卵ＢＥを出し入れすることができる。

【００２４】

また、ユーザが握っていた手の力を緩めると、バネ１７の力によって、第一セグメント側端部１５１１に溶着された第一セグメント１３１と第二セグメント側端部１５２１に溶着された第二セグメント１３２とが近づく方向に動かされる。バネ１７の力によって、ゆで卵保持部１３が閉じる方向に常に押圧されるため、安定してゆで卵ＢＥを保持することができる。

30

(連結部３５)

【００２５】

図４に示すように、連結部３５は、例えば、第一セグメント３３１及び第二セグメント３３２、第三セグメント３３３にそれぞれ溶着され、第一連結部材１５１と略同様の構成からなる第一連結部材３５１、第二連結部材３５２、第三連結部材３５３からなる。

【００２６】

40

結合部３５１２、３５２２、３５３２については、例えば、組み合わされた際に内側になる方向に向かって径が小さくなる円錐台の傾斜面に、互いに噛み合う歯車のような突起を備えた構造にすることができる。

【００２７】

このような構造の結合部３５１２、３５２２、３５３２において、第一把持部３５１３と第二把持部３５２３とが近づく方向に動かされると、第一結合部３５１２、第二結合部３５２２の突起と噛み合う第三結合部３５３２の突起は、第一結合部３５１２、第二結合部３５２２の突起によって押され、結合部３５１２、３５２２、３５３２のゆで卵保持部３３側は、互いに離れる方向に動く。この結合部の動きにより、第一セグメント側端部３５１１に溶着されたセグメント３３１と、第二セグメント側端部３５２１に溶着されたセ

50

グメント 3 3 2 と、第三セグメント側端部 3 5 3 1 に溶着されたセグメント 3 3 3 とが離れる方向に動き、ゆで卵保持部 3 3 が開く。なお、突起は傾斜面の全面にある必要はなく、開閉に必要な位置に備えていればよい。

(連結部 6 5)

【 0 0 2 8 】

連結部 6 5 は、図 7 に示すように、例えば、5 つのセグメント 6 3 2、6 3 4、6 3 6、6 3 8、6 3 0 が溶着された櫛型連結部材 6 5 3 と、セグメント 6 3 2、6 3 4、6 3 6、6 3 8、6 3 0 と対向するセグメント 6 3 1、6 3 3、6 3 5、6 3 7、6 3 9 とを連結する 5 つの蝶番 6 5 4 からなる。蝶番 6 5 4 を軸に、セグメント 6 3 1、6 3 3、6 3 5、6 3 7、6 3 9 を回転させると、ゆで卵保持部 1 3 が開くので、ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を挿脱することができる。

10

【 0 0 2 9 】

なお、連結部 1 5、2 5、3 5、4 5、5 5、6 5 の構造は、上述のものに限定されず、ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を挿脱できるようセグメント (図番省略) をつなぐとともに、開閉させることができるようなものであればよく、連結部をトングのような構造にして、先端にゆで卵保持部 3 3 を設けてもよい。

【 0 0 3 0 】

また、ゆで卵カッター 1 ~ 6 は、連結部 1 5、2 5、3 5、4 5、5 5、6 5 が動かないよう固定するロック機構が設けられてもよい。

(固定棒 1 6)

20

【 0 0 3 1 】

固定棒は、糸状部材を固定し、固定された糸状部材をゆで卵に挿入するための部材である。

【 0 0 3 2 】

固定棒 1 6 は、例えば、図 1 ~ 2 に示すように、端部 1 6 1 に糸状部材 1 2 が結びつけられた竹串状の長細い棒である。なお、糸状部材 1 2 を結び付ける位置は、固定棒 1 6 をゆで卵 B E に刺した際に、糸状部材 1 2 が、ゆで卵 B E 内に位置するように固定されていればよく、端部 1 6 1 でなくともよい。固定棒 1 6 が、溝 1 4 の幅より太い場合は、ゆで卵保持部 1 3 の固定棒が貫通する部位に、固定棒よりやや大きな開口を設けることが好ましい。

30

(調整部 1 6 3)

【 0 0 3 3 】

調整部は、固定棒の差し込み長さを容易に調整し、ユーザ所望の飾り切りを可能にするための部材である。

【 0 0 3 4 】

本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの調整部の説明図であって、目盛の位置についての説明図を図 9 A ~ D に、図 9 A ~ D に対応する目盛の位置に調整した際にできるゆで卵の切り口についての説明図を図 9 E ~ H に示す。

【 0 0 3 5 】

調整部 1 6 3 は、図 9 A ~ D に示すように、例えば、固定棒 1 6 に設けられた目盛 1 6 3 1 である。目盛 1 6 3 1 に合わせて固定棒 1 6 をゆで卵保持部 1 3 に差し込むことで、固定棒 1 6 の差し込み長さを容易に把握し、調整することができる。ゆで卵保持部 1 3 に固定棒 1 6 を差し込む長さは、目盛 1 6 3 1 に合わせて容易に調整できるため、図 9 E ~ H に示すような固定棒 1 6 の差し込み長さに応じた様々なバリエーションの飾り切りができる。

40

【 0 0 3 6 】

なお、固定棒 6 6 は、調整部を備えなくてもよく、連結部 6 5 に固定してもよい。

(誘導部 1 8)

【 0 0 3 7 】

誘導部は、糸状部材の端を分かりやすくするとともに、把持しやすくするための部材で

50

ある。

【 0 0 3 8 】

誘導部 1 8 は、例えば、図 1 ~ 2 に示すような、棒状でもよいし、図 3 に示すような指を掛けて使用するようなリング状のものでよいし、図 7 に示すような弓形状でもよく、形状は上述のものに限られない。図 2、図 7 に示すように、突起形状の糸状部材の取付部 1 8 2、6 8 2 を設けることにより、糸状部材 1 2 の取り付け及び誘導が容易にできる。
(使用方法)

【 0 0 3 9 】

本発明の第一実施例に係るゆで卵カッターの使用方法についての説明図を図 1 0 に示す。

10

【 0 0 4 0 】

図 1 0 に示すように、まず、ステップ S T 1 0 1 において、ユーザは、第一把持部 1 5 1 3 と第二把持部 1 5 2 3 が近づく方向に強く握り、ゆで卵保持部 1 3 を開く。次に、ステップ S T 1 0 2 において、開いたゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を入れる。その後、ステップ S T 1 0 3 において、ユーザが握っていた手の力を緩めると、バネ 1 7 の力により、第一セグメント 1 3 1 と第二セグメント 1 3 2 が近づく方向に押され、ゆで卵保持部 1 3 が閉じ、ゆで卵 B E が保持される。

【 0 0 4 1 】

次に、ステップ S T 1 0 4 において、目盛 1 6 3 1 で調整しながら、ゆで卵保持部 1 3 に固定棒 1 6 を差し込む。さらに、ステップ S T 1 0 5 において、一方の手で第一把持部 1 5 1 3 を握り、他方の手で誘導部 1 8 を握り、固定棒 1 6 の挿入位置から、糸状部材 1 2 を溝 1 4 に沿って、固定棒 1 6 の挿入位置まで一回り動かし、ゆで卵 B E を切断する。

20

【 0 0 4 2 】

次に、ステップ S T 1 0 6 において、ユーザは、第一把持部 1 5 1 3 と第二把持部 1 5 2 3 とが近づく方向に強く握り、ゆで卵保持部 1 3 を開く。最後に、ステップ S T 1 0 7 において、開いたゆで卵保持部 1 3 から飾り切りされたゆで卵 B E を取り出す。

【 0 0 4 3 】

なお、ステップ S T 1 0 2 において、ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を入れる際に、ゆで卵 B E を固定棒 6 6 に突き刺してもよい。

【 0 0 4 4 】

30

なお、本発明の第二実施例 ~ 第五実施例に係るゆで卵カッター 1 ~ 5 については、第一実施例と略同様に使用することができる。

【 0 0 4 5 】

また、本発明の第六実施例に係るゆで卵カッターの使用方法については、蝶番を軸に、セグメントを回転させることにより、ゆで卵保持部 1 3 の開閉を行う点以外は第一実施例と同様である。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 4 6 】

本発明は、安全性が高く、誰にでも簡単に美しい飾り切りができるゆで卵カッターに使用できる。

40

【符号の説明】

【 0 0 4 7 】

1 ~ 6 ... ゆで卵カッター

1 2、2 2、3 2、4 2、5 2、6 2 ... 糸状部材

1 3、2 3、3 3、4 3、5 3、6 3 ... ゆで卵保持部

1 3 1、2 3 1、3 3 1、4 3 1、5 3 1、6 3 1 ... 第一セグメント、

1 3 2、2 3 2、3 3 2、4 3 2、5 3 2、6 3 2 ... 第二セグメント、

3 3 3、4 3 3、5 3 3、6 3 3 ... 第三セグメント

4 3 4、5 3 4、6 3 4 ~ 6 3 9、6 3 0 ... セグメント

1 4、2 4、3 4、4 4、5 4、6 4 ... 溝

50

1 5、2 5、3 5、4 5、5 5、6 5 ... 連結部
 1 5 1、2 5 1、3 5 1 ... 第一連結部材、1 5 1 1 ... 第一セグメント側端部、1 5 1 2 ...
 第一結合部、1 5 1 3 ... 第一把持部
 1 5 2、2 5 2、3 5 2 ... 第二連結部材、1 5 2 1 ... 第二セグメント側端部、1 5 2 2 ...
 第二結合部、1 5 2 3 ... 第二把持部
 3 5 3 ... 第三連結部材
 6 5 3 ... 櫛型連結部材、6 5 4 ... 蝶番
 1 6、2 6、3 6、6 6 ... 固定棒
 1 6 1 ... 挿入側端部、1 6 2 ... 把持側端部、1 6 3 ... 調整部、1 6 3 1 ... 目盛
 1 7、2 7、3 7 ... パネ
 1 8、2 8、3 8、4 8、5 8、6 8 ... 誘導部
 1 8 1、6 8 1 ... 把持部、1 8 2、6 8 2 ... 糸状部材の取付部

B E ... ゆで卵

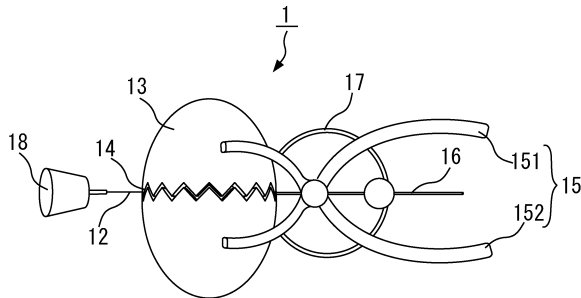
【要約】

【課題】安全で、誰にでも美しい飾り切りが容易にできるゆで卵カッターを提供する。

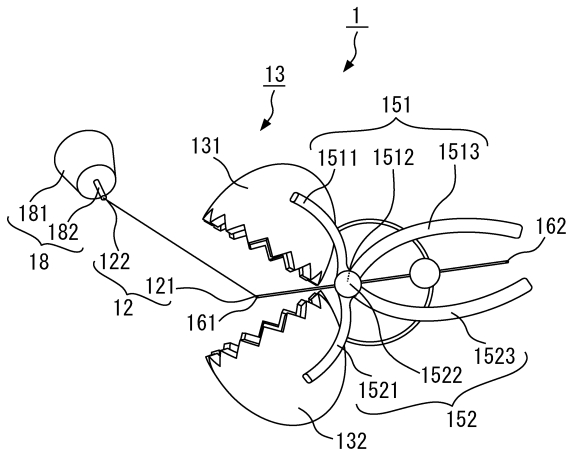
【解決手段】ゆで卵 B E を切断する糸状部材 1 2 と、少なくとも 2 つ以上のセグメント 1 3 1、1 3 2 からなり、ゆで卵 B E を包み込むように保持するゆで卵保持部 1 3 と、糸状部材 1 2 が取り付けられ、取り付けられた糸状部材 1 2 とともに、ゆで卵保持部 1 3 に覆われたゆで卵 B E に一端 1 6 1 が挿入される固定棒 1 6 と、糸状部材 1 2 が貫通するよう、隣り合うセグメント 1 3 1、1 3 2 を離間させる溝 1 4 と、ゆで卵保持部 1 3 にゆで卵 B E を挿脱させるよう、複数のセグメント 1 3 1、1 3 2 を開閉自在に連結させる連結部 1 5 とを備える。

【選択図】図 1

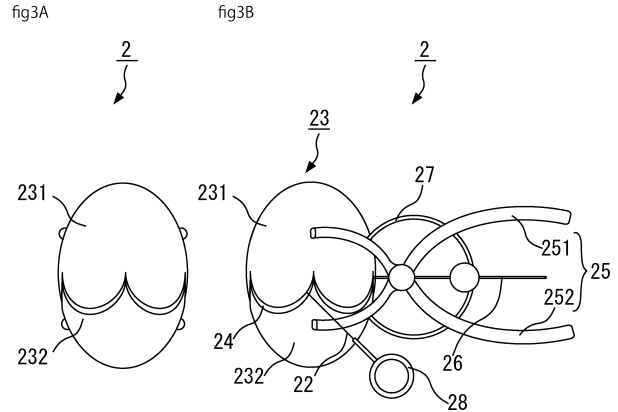
【図 1】



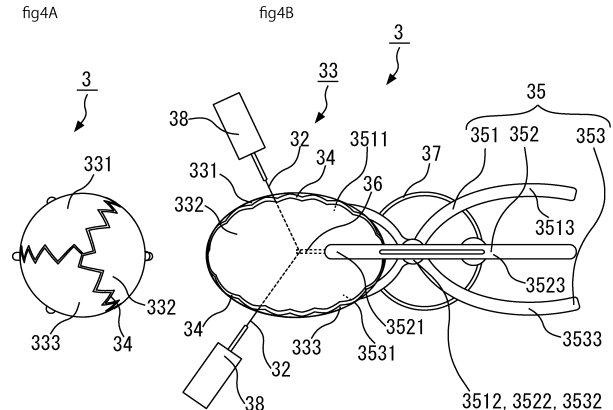
【図 2】



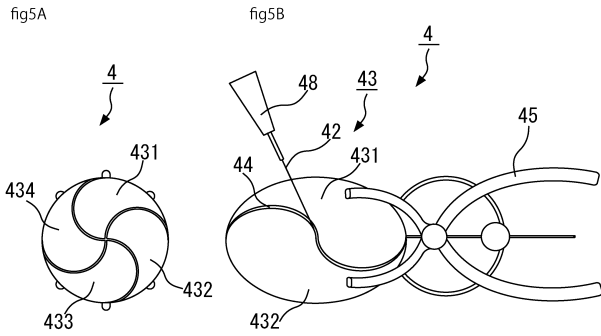
【図 3】



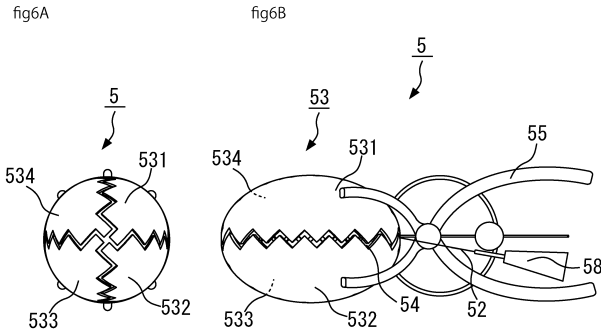
【図 4】



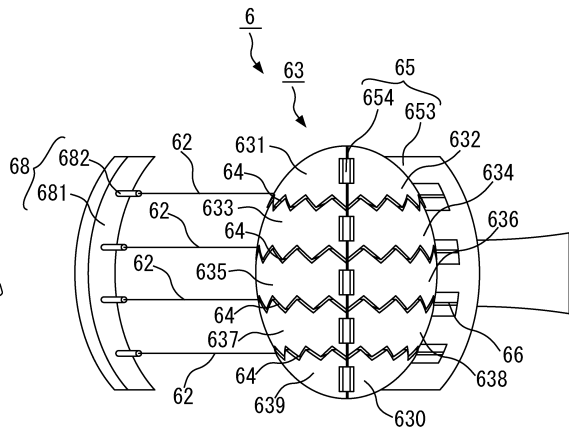
【図 5】



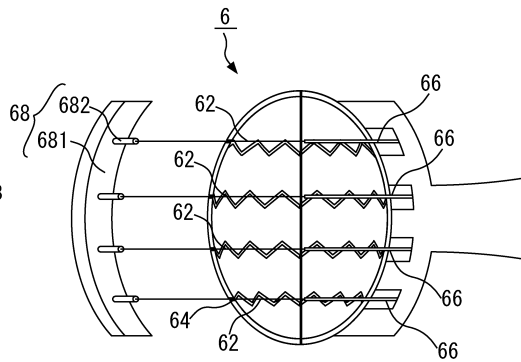
【図 6】



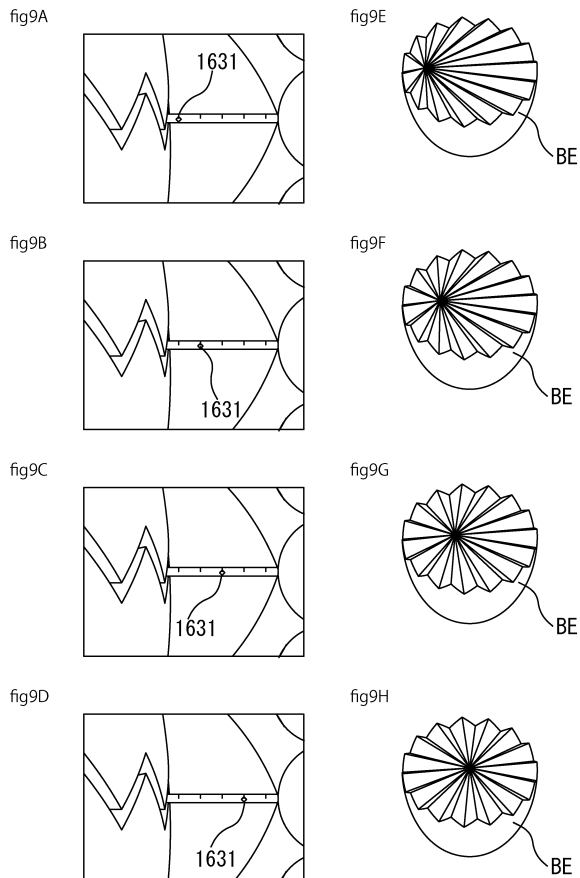
【図 7】



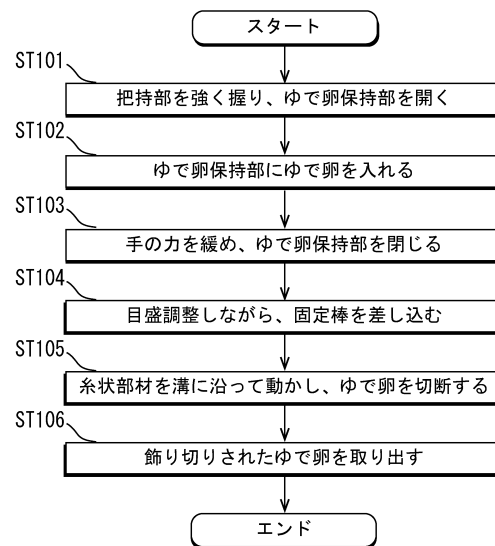
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(56)参考文献 実公昭49-030595(JP,Y2)
実公昭44-008261(JP,Y1)
登録実用新案第3113475(JP,U)
特表2010-533603(JP,A)
実開昭55-37178(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
B26D 3/24
A47J 43/20